

島根・西川津遺跡

にしかわつ

- 1 所在地 島根県松江市西川津町原の前
- 2 調査期間 一九九四年(平6) 四月～一二月
- 3 発掘機関 島根県埋蔵文化財調査センター
- 4 調査担当者 西尾克己
- 5 遺跡の種類 河川跡
- 6 遺跡の年代 縄文時代～江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(松江)

西川津遺跡は、隣接する原の前遺跡やタテチョウ遺跡(本誌第一六号)とともに、松江市街地の東を流れる朝酌川(『出雲国風土記』でいう水草川)流域に所在する低湿地遺跡である。縄文時代から近世までの各時代にわたる遺構や遺物が発見されているが、とりわけ弥生時代のものが多く、宍道湖周辺に点在した拠点集落の一つとされている。

奈良時代から中世にかけて

ても、川沿いの生活を窺わせる遺物が数多く出土している。須恵質の土馬や木製の斎串・人形・呪符などの祭祀遺物や、木製の塔婆・巡礼札・木像(仏像か)など仏教信仰に関わる出土品も認められる。今回紹介する木簡は木製の塔婆で、本遺跡Ⅲ区(D区左岸 松江市立川津小学校付近)の旧朝酌川の土手に打たれていたものである。杭は大小四〇本程あり、その中に塔婆を二次利用したものが一〇本認められた。このうち文字の確認できた五点について報告する。

それらは丸木を半截し、その割られた面に文字を書いている。裏側は加工がなされず、皮が付いたままである。材質は松が多く、落葉樹も混じる。上部を尖らせ、塔婆を表す刻みを入れ、さらに上端部を墨で塗るものもある。また、杭とするために先端を三角に削ったものも存在する。時期は、年号が書かれた塔婆が二本あり、江戸時代中頃と考えられる。

8 木簡の积文・内容

(1) 是 (タテ)

(425)×(274) 061

(2)

徳末年
六

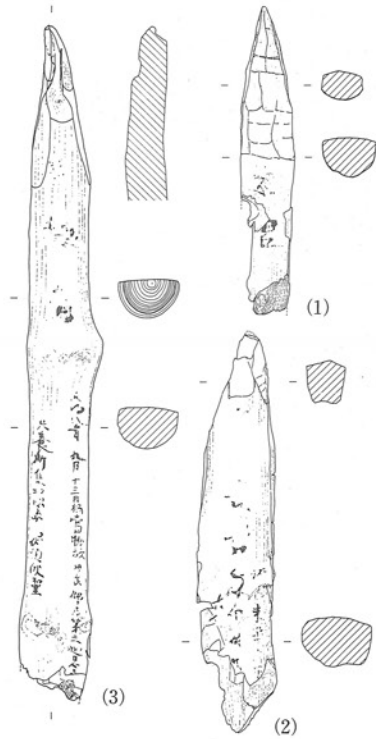
(550)×(296) 061

(3)

尊者 天明八年 九月十三日 物故妙真禅尼
共養所集功徳奉 伏願 利生

第三廻忌之×

(932)×(281) 061

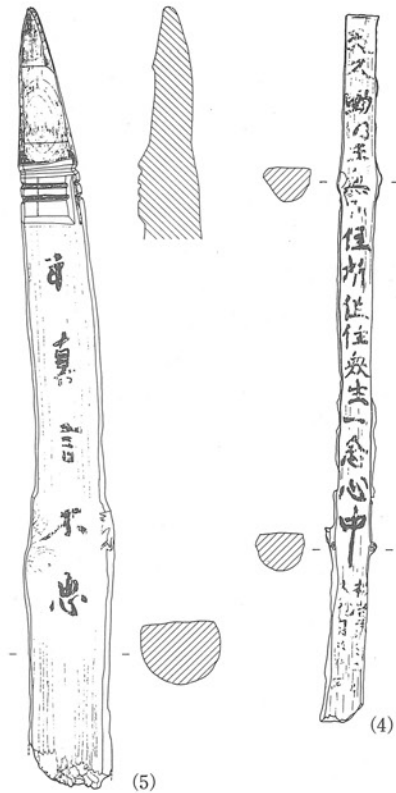


(4) 不動明王無口住所但住衆生一念心中
 (981) × 107 061

真言不忠
 (981) × 107 061

(5) 真言不忠
 (1084) × 107 061

(1) (3)は、上端が尖り杭状になっている。(2)の年号の最初の一字は「正」と考えられ、未年より正徳五年(一七一五)と推定される。(3)の尊趣は尊意の意味か。天明八年は一七八八年。(4)は、上端が折



れており、杭状かどうかは不明。(5)は、上端は尖る。尖りが始まる部分に三条の平行の刻みの線を入れる。尖る部分と二条の刻みの線には墨を塗る。

9 関係文献

島根県教育委員会『西川津遺跡Ⅶ—朝酌川中小河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第二二冊—』(二〇〇〇年)

(西尾克己)